I-5

# 震災復興を契機とした世帯変化と防集移転後の互助・交流の実態に関する研究
## -東日本大震災による宮城県石巻市二子団地への移転を対象として-
## Household changes due to reconstruction from disaster, mutual aid and fellowship after group relocation project
## -Case study of Futago housing complex, Ishinomaki City, Miyagi Prefecture Japan -

○中林諒[1]，　藤本陽介[2]，山中新太郎[3]
*Ryo Nakabayashi[1], Yosuke Fujimoto[2], Shintaro Yamanaka[3]

Nine years have passed since the Great East Japan Earthquake. Many of the victims have changed their household composition and started new lives. The purpose of this study is to understand how the victims who have experienced the group relocation of the disaster prevention are currently living and accepting the changes in the environment due to the relocation.

## １．はじめに

### 1-1. 研究の背景と目的

2011 年３月 11 日に発生した東日本大震災から約９年が経過し，防災集団移転促進事業を始めとした復興支援事業が進んでいる．被災者の防災集団移転団地（以後防集団地と呼ぶ）への移転が完了した地域も多く，住民の多くは新しい生活を始めていると考えられる[1)]．

一方で仮設住宅や公営住宅への望まない移転により「住宅の規模」や「世帯構成」に変化が生じた被災者の方々も多い．そのような被災者の現在の生活，移転による変化の受容について把握することが必要である．

本研究は，防集移転により新たな生活を始めた被災者の①世帯変化の実態を明らかにし，家族の形態がどのように変化したのか，また②現在の生活における被災者の互助・交流の特徴を把握し，被災者の現在の生活における課題や問題点を明らかにすることで，今後予見される災害における防集移転のコミュニティ形成の一助とするほか，対象者の今後の生活発展に対する知見を得ることを目的とする．

### 1-2. 研究の位置付け

東日本大震災における世帯変化に関する研究として，前田ら[2)]は震災前と同じ世帯構成でなくても，住み方の工夫によって家族関係を維持する特徴があることを明らかにしている．東日本大震災における交流の研究として佐々木[3)]は移転後のお付き合いには公営住宅の間取りが影響していることなどを明らかにしている．

### 1-3. 研究の対象と方法

本研究では宮城県石巻市にある二子団地に居住する被災者 354 世帯を対象とする．２回のアンケート調査により①震災当時と現在の世帯構成及び世帯変化の要因，②親族間・団地内での互助・交流の相手・頻度・内容，③現在の生活の満足度などを伺った．

## ２．対象地概要

### 2-1. 二子団地の概要

石巻市旧河北町に整備された二子団地は，半島沿岸部の雄勝・河北・北上地域から移転を選択した 354 世帯が生活する大規模な防集団地である．団地の東側に河北地域（142 世帯），北側に北上地域（14 世帯），西側に雄勝地域（198 世帯）が住んでいる（図１）．二子団地は 2018 年３月に移転が完了した．これは石巻市の中で最も遅い移転である[4)]．

### 2-2. 二子団地の生活環境

河北地域の被災世帯は被災した地区ごとにまとまって住むように区画分けがされたが，雄勝地域の被災世帯は原則として抽選で区画を決定し，出身地区に関係なく区画分けされている．また，二子団地では３つの町内会に分かれている．河北地域は全て東町内会に，北上地域は全て西町内会に所属し，雄勝地域は西町内会と南町内会に分かれて所属している．町内会ごとに公営住宅と自力再建の比率が異なるほか，町内会活動が独自で行われており，それぞれで活発さが異なる．

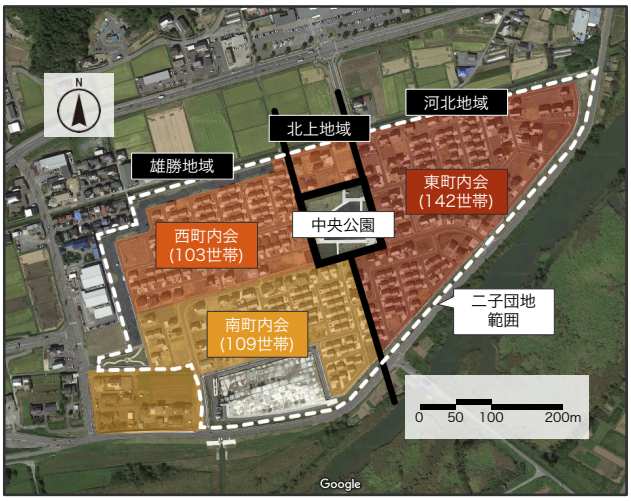


図１　二子団地概要[注1)]

１：日大理工・院（前）・建築、２：日大理工・研究員・建築、３：日大理工・教員・建築

表１ 震災当時と現在の世帯構成の変化

| | | 現在の世帯構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 東町内会 | | | | | | | 西町内会 | | | | | | | 南町内会 | | | | | | | 全体 | | | | | | |
| | | 単身世帯 | 夫婦 | 夫婦＋子 | ひとり親＋子 | 三世代 | その他 | 計 | 単身世帯 | 夫婦 | 夫婦＋子 | ひとり親＋子 | 三世代 | その他 | 計 | 単身世帯 | 夫婦 | 夫婦＋子 | ひとり親＋子 | 三世代 | その他 | 計 | 単身世帯 | 夫婦 | 夫婦＋子 | ひとり親＋子 | 三世代 | その他 | 計 |
| 震災当時の世帯構成 | 単身世帯 | 6 | - | - | - | - | - | **6** | 17 | - | - | - | - | - | **17** | 10 | - | - | - | - | - | **10** | 33 | - | - | - | - | - | **33** |
| | 夫婦 | 2 | 10 | 1 | - | 1 | - | **14** | 3 | 8 | - | - | - | - | **11** | 3 | 10 | - | 1 | - | - | **14** | 8 | 28 | 1 | 1 | 1 | - | **39** |
| | 夫婦＋子 | 5 | 1 | 4 | 1 | 2 | 1 | **14** | - | 1 | 4 | - | 1 | - | **6** | 1 | 3 | 4 | 1 | - | 1 | **10** | 6 | 5 | 12 | 2 | 3 | 2 | **30** |
| | ひとり親＋子 | 2 | - | - | - | - | - | **2** | - | - | - | 1 | - | - | **1** | 2 | - | - | 2 | 1 | - | **5** | 4 | - | - | 3 | 1 | - | **8** |
| | 三世代 | - | 2 | 5 | 2 | 2 | - | **11** | - | - | 2 | - | 3 | - | **5** | - | 1 | - | - | 3 | 1 | **5** | - | 3 | 7 | 2 | 8 | 1 | **21** |
| | その他 | - | - | - | - | - | 3 | **3** | - | 1 | - | - | - | - | **1** | 1 | - | - | - | - | 2 | **3** | 1 | 1 | - | - | - | 5 | **7** |
| | 計 | **15** | **13** | **10** | **3** | **5** | **4** | **50** | **20** | **10** | **6** | **1** | **4** | **0** | **41** | **17** | **14** | **4** | **4** | **4** | **4** | **47** | **52** | **37** | **20** | **8** | **13** | **8** | **138** |

凡例：世帯人数が増加した世帯が多い　世帯人数が変化なしの世帯が多い　世帯人数が減少した世帯が多い

## ３．世帯変化の実態

### 3-1．世帯変化の実態

震災当時と現在の世帯構成の変化を表した表を示す（表１）．世帯人数が変化していない世帯が最も多く，「単身世帯」や「夫婦」の世帯に多く見られ，世帯構成も同様に変化がないことが多いということがわかる．世帯人数が減少した世帯は震災当時に二世代以上（「夫婦＋子」や「三世代」）で生活をしていた世帯に多く見られ，現在単身世帯となっている世帯が多い．世帯人数が減少した世帯が最も様々な世帯構成の変化をしていることがわかる．

町内会ごとに比較すると，東町内会では震災当時に「三世代」であった世帯が世帯人数で減少がみられ，「単身世帯」への変化が特に多い．南町内会では「三世代」の世帯変化はあまり見られず，震災当時「夫婦」や「夫婦＋子」の世帯の世帯変化が多い．

## ４．現在の生活の実態

### 4-1．互助・交流のある人数

アンケート調査にて交流のある相手を親族間・団地内それぞれ最大３人について回答してもらった．互助や交流のある人数をみると，全体的に親族間での交流人数が団地内の交流人数に比べ多い．団地内の交流の人数が０人と回答している人が全体の約30%いることから，団地内の交流を必要としていなかったり，行なっていない人が一定数いると考えられる．

町内会ごとでは，西町内会は親族間交流を０人と回答する割合が他町内会よりも多く，親族を頼らずに世帯で自立をしている割合が高いと考えられる（図２，３）．

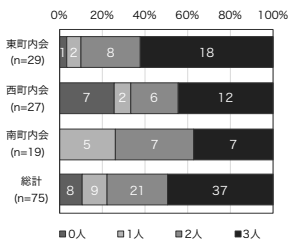


図２ 親族間交流の人数

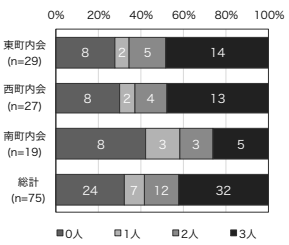


図３ 団地内交流の人数

### 4-2．団地内交流の相手といつから関わりがあるか

団地内で交流のある相手といつから関わりがあるかについての結果を図４に示す．雄勝・北上の被災世帯で構成される西・南町内会では半数以上の交流のある相手が震災以後に出会った相手であるが，一方で東町内会では多くの相手が震災以前から交流のある相手である．

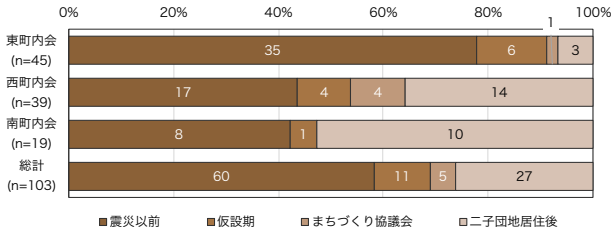


図４ 団地内で交流のある相手といつから関わりがあるか

## ５．まとめ

### 5-1.町内会ごとの違い

世帯変化や互助・交流に関して，町内会によって異なる傾向が多く見られた．二子団地の住民はそれぞれ震災以前の生活環境にも違いがあるが，現在の生活においての町内会活動や区画分けなどの計画の影響も大きいと考えられる．

### 5-2．今後の展望

今後はアンケート調査の結果から，世帯変化と互助・交流の関係性について分析を進めていく．同時に，二子団地を計画するにあたっての議論や，実際の配置計画などをアンケート調査の結果とクロス分析することで，計画に当たって考慮された部分が現在の生活においてどのように影響を与えているのかについて分析していきたいと考えている．

## 参考文献・注釈

注１） GoogleMap より筆者作成

1) 石巻市：東日本大震災からの復興 −最大の被災都市から世界の復興モデル都市 石巻 を目指して−，2020.3
2) 前田昌弘・佃悠・小野田泰明・髙田光雄・天艸開・中村奎吾：集団移転における世帯分離・再編を伴う住宅・生活再建に関する研究 −東日本大震災における宮城県岩沼市玉浦西地区を事例として−，日本建築学会計画系論文集，第 85 巻，第 770 号，pp793-803，2020.4
3) 佐々木麗：震災復興期の転居による接客空間の変化に関する研究-東日本大震災における宮城県石巻市雄勝地域の復興を対象として-，日本大学大学院理工学研究科修士論文，2018
4) 小林徹平・平野勝也・松田達生・小野田泰明・中木亨・中田千彦・今村雄紀：宮城県石巻市河北団地における移転団地の設計，土木学会景観デザイン研究講演集，No.10，pp325-330，2014